北海道バプテスト連合ニュース
全道にキリストの光を！

２０１７年４月発行　No. １１０
発行者　西島啓喜　　編集者　西島啓喜
発行所　〒080-0809　帯広市東9条南8丁目1-3
帯広バプテスト・キリスト教会内
http://hokkaidobap.jimdo.com　pw:jbc1947

巻頭言

「私たちがまた一つになれますように」

北海道バプテスト連合 会計 杉山 望（札幌教会副牧師）

「つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」
（コリント人への第二の手紙５章１９節、口語訳）

先日、ＮＨＫのBS特集『明日世界が終わるとしても』という番組で、国際ミッションボランティアの佐々木和之さんの働きが取り上げられました。この番組のディレクターは、ルワンダのピアス大学に留学し、佐々木さんのもとで平和学を学んだ方です。ルワンダでは１９９４年に８０万人（国民の約１割）が虐殺されるという大事件が起こりました。佐々木さんは１２年前からルワンダに住み、現地のNGOとも協力しながら、被害者と加害者の和解のための働きを続けておられます。

佐々木さんの講義では、虐殺を目の当たりにした学生も多いため、彼・彼女たちが自分の経験を語り、心の傷を分かち合う時間をもっています。そこである学生は、父親を殺害した人に対して「もう憎しみはないが、彼が何を考えているのかわからないことが怖い」と、加害者に対する不信感を語りました。また、被害者と加害者が共同で運営し、収益を分かち合う養豚場で働くサラビアナ（サベリアナ）さんも、一緒に働く人たちに対して、「彼らが黙ったままだと、何を考えているか分からないから不安」と語りました。表面的には関係が修復されたように見えるルワンダですが、虐殺から２３年たっても消えない被害者と加害者のわだかまりが残っています。加害者は自分の罪と向き合うことができず、被害者は「和解して、相手を許さなければならないが、許せない」という葛藤を抱えています。

佐々木さんはこのルワンダで、「被害者と加害者がお互いの心からの気持ちを伝えあわなければ、本当の和解は成立しない」という信念を持って和解の働きを続けています。サラビアナさんの幼なじみであり、加害者ともなった男性が彼女の癒えない苦しみを聞き、「以前のような、兄弟みたいな関係に戻りたい」と直接謝罪することを決心します。でも、なかなか自分の責任を認められません。サラビアナさんは、「彼の心のうちを話してもらってないのに、どうやって許せるでしょうか」、と嘆きます。さらに時間をかけ、ようやく彼は自分の行為を語り、謝罪をしました。「今すぐ許すことはできないけれども、自分の親族にも同じように謝罪をしたときには、許せると思う」、と語ったサラビアナさんは、別れ際に彼に言いました。「私たちがまた一つになれますように」。

私たちはだれもが罪人であり、神様との関係も、また隣人との関係も傷つけてしまいます。そんな私たちを神様はキリストによってご自分と和解させ、新しく造り変え、関係を修復してくださいました。この和解は私たちの生活から離れた何らかの儀式や判決によってもたらされたものではありません。私たちの友となり、私たちの間に住み、私たちのために十字架にかけられた神の御子イエス・キリストによってもたらされました。そして神様は、なんと罪人である私たちに「和解の福音をゆだねられた」というのです。神様と和解させられた者は、イエス様の歩みに従って、隣人との和解の道に進むように導かれます。

この隣人との和解への道も、私たちの日々の生活の中にあります。そしてそれは「お互いの心からの気持ちを伝えあう」ことから始まります。神様が私たちに向かって語り続け、また私たちの思いを聞き続けておられるように、私たちも互いの思いを語り合い、聞き合うところから、和解が始まっていきます。和解はプロセス（過程）であり、それが繰り返されることで関係が修復し、また深まっていくのです。それは、虐殺のような大きな分断だけでなく、ちょっとしたすれ違いが生じているところや、関係がまだできていないところでも同じでしょう。連合の諸教会の繋がりを強め、協力伝道を豊かにするためにも、連合総会や諸集会に共に集い、互いの思いを聞き合うことが繰り返されることを願っています。

●北海道から八戸へ

松坂　有佳子　（八戸教会牧師）

「そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。」使徒 13：3

この度、八戸教会より招聘を受け、牧師として赴任することになりました。福岡ベタニヤ村教会を辞してから 13 年間のブランクがあり、かなりのプレッシャーですが、導きを信じて決断いたしました。小さな東光の群れは痛みも覚えつつ、自分たちへの祝福の出来事として派遣の祈りをしてくださいました。

夫はこれまで通り東光での働きを続けますので、家族が２つに分かれることになり、家族にとっても大きなチャレンジです。わたしは長男を伴い、娘２人は東光に残りますので、お祈りに覚えていただければ幸いです。

思えば 12 年前に東光に遣わされる夫について北海道にやってきましたが、以来連合の交わりと協力伝道に、慰めと励ましをいただいてきました。そして東日本大震災以降は、連合の祈りに押し出されて何度も海を渡りました。そして今回、誠に勝手ながらこの協力伝道の業によって立たされて「お隣の八戸へ」と送り出されるのだと信じています。冒頭のみ言葉は、一昨年前奥村敏夫牧師が東光の記念礼拝で「落ち着かない教会でいてください」とメッセージしてくださった聖書箇所です。東光の群れのことも、ご祷援お願いいたします。

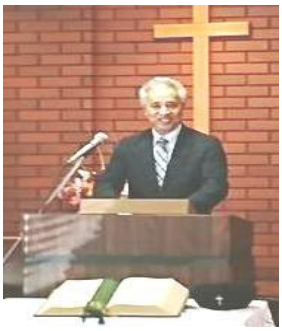
●小樽教会、帯広教会に牧師着任

無牧師であった小樽教会にエイカーズ・愛牧師（札幌教会から）が、帯広教会に川内裕子、川内活也牧師（川内教会から）が４月に着任することになりました。無牧師期間中は両教会に連合の諸教会から温かい励ましと支援を頂いたことを感謝します。

今後、両教会が新牧師とともに新たな思いで宣教活動と教会形成に励まれますことを引き続きお祈りしていきたいと思います。なお、帯広教会は７月 17 日（月・祝）に就任式を執り行う予定です。

●「連合音楽委員会の働き　リビングホープ教会奉仕」

音楽委員　森 洋子（ 函館美原教会 ）



連合音楽委員会では、これまでも無牧師の教会への奉仕を活動の柱としてきました。専任牧師不在の中で伝道／牧会活動をしておられる兄弟姉妹への連帯と励ましを携えて出かけていきますが、毎回、励まそうと思っている私たち自身が励まされ、祈られていることを感じさせられます。ほんとうに主の恵みは大きいと逆に力をいただくのです。

これまで、釧路、室蘭、小樽、そして、今年３月 12 日に札幌市のリビングホープ教会を訪ねました。今回は連合聖歌隊などの大きなものではなく、奏楽、特別讃美と証し、礼拝説教を３人の委員が担当し、礼拝の恵みに共に与りました。

朝、一人、二人と集まって来られる教会員の方々と挨拶を交わしながら、「ひとり」の大切さ、かけがえなさに思いを致し、「声はちいさくてもよろこびなさる神さま」というこどもさんびかの歌詞を思い浮かべました。

とても印象的だったのは、教会のミッションステートメントと年間主題聖句を皆さんが大きな声で読まれる姿でした。「祝福してくださるまで、あなたを去らせません」と言ったヤコブのように主を求める姿に打たれます。

リビングホープ教会の祈りの課題の第一は、「ビジョンが与えられるように」です。熱心に主とその祝福を求める方々が、主からビジョンをいただいて教会を建て上げ、福音をこの地に伝えていけるよう、十分な備えがなされますよう続けてお祈りします。

リビングホープ教会の皆様、また、送り出してくださった帯広、札幌、函館美原、また、音楽委員会の活動を祈り支えてくださる連合の皆様に感謝致します。

●牧師館改築記

西島啓喜　（帯広教会）

無牧師期間の連合諸教会の祈りと支援に感謝します。さて、帯広教会はこの度牧師館を改築しました。前の牧師館は初代のものを一度リニューアルしたとはいえ、築 53 年を経て耐震基準以前の建物であり、かねてから改築の構想が出されていました。2016 年 2 月に川内裕子、川内活也牧師の招聘が決まり、着任が 2017 年 4 月と 1 年間の余裕ができたことから改築に踏み出しました。

資金計画は、積立金 500 万円、教会債・献金 600 万円、連盟回転資金 900 万円の 2000 万円を予定し、5 社に見積もりを依頼したところ 2 社から応答があり、コンペの結果 K ホームに依頼することにしました。K ホームと建築委員会とでプランを煮詰め 33 坪、本体 1600 万円ほどのプランで契約しました。工法は 2 × 6 の高気密・高断熱の寒冷地向けの住宅。震度 7 までの耐震性があります。災害時に備え熱源をプロパン、灯油、電気に分散しました。

旧牧師館を解体しようと思ったときに十勝地方は台風 10 号による大災害に見舞われ、建設会社は復旧に重機を総動員。なかなか解体業者が決まりませんでした。かろうじて一社が解体を引き受けてくださりようやく着工するというハプニングもありました。

10 月 10 日着工、2 月 3 日竣工と順調に工事が終わり、建築会社の要望もあって 2 月 11 日と 12 日、完成見学会をし、地域の方に住宅を公開しました。

本当に良いタイミングで改築ができたことを主の導きと感謝し、新牧師の生活を支え宣教の働きを支えるものであるように願い、教会員一同完成を喜んでいます。

● 2016 年度社会問題関係報告

浦瀬佑司　（札幌教会）

2016 度から、社会問題に関する北海道バプテスト連合の窓口を務めることとなりました。現在の状況について説明しながら、日本バプテスト連盟や他教派との連携の状況などについて報告します。

2013 年から 16 年までの 4 年間に、特定秘密保護法、安全保障関連法制、盗聴の自由化と続き、今国会に共謀罪（テロ等組織犯罪準備罪）が提案される予定です。ここで目指しているのは、国家主義の回復です。政治権力に反対する者に対する徹底的な弾圧が目指され、新たな形の治安維持法に繋がる可能性が大です。加えて、君が代・日の丸の強制が強化されそうです。首相や閣僚らの靖国神社への参拝問題については、東京、大阪の両訴訟が進んでいます。しかしながら、稲田防衛大臣を含む、複数の大臣や副大臣は、立場を明確にしないまま、参拝を続けており、いろいろな団体も抗議の声明を出しています。また戦後に始まった新年の伊勢の神宮参拝も問題であり、政教分離原則に対する違反事象として、非難・抗議を続けなければなりません。

天皇の生前退位の意向が示されたことにより、今後大嘗祭の問題がクローズアップされてきます。現天皇の即位の儀以来 29 年を経、問題点を認識していないクリスチャン、国民が多くなってきており、どのようにその課題を示して行くのか、考えなければなりません。このような状況下北海道各地で 2. 11 の集会や 8. 15 の平和祈祷会などが開催され、平和と、政教分離のための集会が進められています。又、6 月に、旭川護国神社例大祭について、その性格を問う集会が、「政教分離北海道集会」として開催されています。各地の集会案内については、今後各教会へ情報提供を進めてゆきますが、是非祈って参加或いは協力をお願いしたいと思います。また『「安保法制」に反対する北海道宗教者連絡会』も継続されています。これは、北海道の宗教者が中心となって進められている運動です。バプテストを含むキリスト教のほか、東西本願寺や教派神道（金光教など）のほか、一般市民の方々も一緒になった運動です。お祈りをお願いします。

●伝道プログラム支援他のご案内

北日本地区宣教主事　田代　仁（苫小牧教会牧師）

日本バプテスト連盟では教会・牧師の活動を協力伝道の祈りで応援するために、各種支援の仕組みをもっています。財政等の厳しい教会を支える「教会特別支援（第一支援）」、突発的な災害や牧師の病気などで緊急に支援が必要となった場合の「緊急支援」、他に「全国支援・地域協働プロジェクト支援」、「牧師研修活動支援」、「講師派遣支援」などがあります。

中でも教会の活動に身近に寄り添う支援として行われていますのが「伝道プログラム支援」です。特に北海道連合の場合、通常は連盟宣教部が行う支援の決裁を連合役員会が連盟宣教部よりその委託を受けて行っています。そのため、より諸教会に寄り添いつつ小回りの利く支援の判断を

行うことが出来るようになっています。

支援の内容としては主に経常献金が 700 万円以下の規模の教会を対象に、新たに伝道所を開設し活動する支援として「開拓伝道所開設助成費」、伝道所の活動支援として「教会開拓伝道所活動費」、無牧師教会や教会復興を目指す活動の支援として「教会維持活動費」、教会活動の設備を整える支援として「教会施設整備費」、チラシや教会案内などの伝道活動を支援として「広告宣伝費」、講師を招いたり牧師の休養のための「教会研修費」、伝道隊派遣や受け入れの支援として「教会間パートナーシップ伝道費」、特別伝道集会などの支援として「伝道プログラム開催費」などがあります。

詳細については皆さんの教会に送付されております「2017 年度　各種支援のご案内」をご参照ください。特にこの「伝道プログラム支援」については連合役員会又は北日本地区宣教主事（田代）まで、またそれ以外の支援については田代または連盟宣教部まで、ご相談ください。これらの支援を活用して、ぜひ 2017 年度の皆様の教会活動がより豊かにされることを心よりお祈りしています。

●連合青少年春の修養会

HYP 委員　吉田尚志（室蘭教会牧師）

３月 27 日（月）～ 29 日（水）まで、帯広バプテスト・キリスト教会で青少年春の修養会が行われました。講師に日本バプテスト同盟根室キリスト教会牧師の高橋和則先生をお迎えし、少年少女、青年、スタッフ総勢 24 名の参加者と共によき学びと交わり、分かち合いの時を持つことができました。

今年度の修養会のテーマは「なぜですか？イエス様！！～みんなと御言葉と出会う～」。ルカによる福音書 18 章 18 - 30 節の御言葉とじっくり向き合う時が与えられました。最初はまったく理解できないと思われたイエス様の言葉が少しずつ自分の心に息づいた御言葉として語りかけてくるような経験を持つことができました。神様の御言葉を求める。この大切な高橋先生の講演を通して、また参加された皆さんと御言葉を分かち合うことを通して教えられました。

これからも神様がわたしたち一人一人に与えてくださっている御言葉を教会に集われている皆さんと共に求め続け分かち合っていきたいと思います。修養会に少年少女・青年を送り出して下さいました北海道連合諸教会の皆様に心より感謝いたします。

北海道バプテスト連合　定期総会開催の公示

日　　時　２０１７年４月２９日（土）10:30 ～ 15:30
※各会 9:30 ～ 10:20、開会礼拝 10:30 ～ 11:00 ／派遣礼拝 15:00 ～ 15:30 を予定
会　　場　札幌バプテスト教会・礼拝堂
総会牧師　松坂克世　旭川東光教会牧師
議 長 団　議長　齊藤聖彦　氏（帯広教会）、副議長　福田史子　氏（旭川教会）
代 議 員　各教会３名以内（連合規約１２条）
旅費補助　代議員の旅費を補助します。宿泊費補助の対象は、函館、函館美原、釧路、帯広、連合役員、総会役員です。

議　　案
① 2016 年度活動報告
② 2016 年度決算報告および監査報告
③ 2017 年度活動計画案
④ 2017 年度予算案
⑤ 「北海道伝道資金基金」運用規定の件
⑥ 信徒大会 2018 開催の件
⑦ 2018 年度定期総会日程および会場
⑧ 次期総会役員選出
⑨ その他

（審議順序は入れ替わる場合があります）